

愛・地球博の理念と成果を継承した県民協働の公園運営組織づくり

玉野総合コンサルタント株式会社 統括事業部 建設技術部 ランドスケープ課 則竹登志恵

○キーワード

愛・地球博、新しい公共、県民協働、多様な主体、公園運営管理、パークマネジメント、コーディネーター

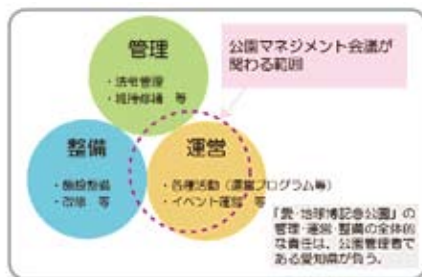
○概要

「愛・地球博記念公園」では、現在、博覧会の理念と成果の一つである「市民参加」の継承として、県民協働による公園運営管理の組織づくりと活動が進められている。約2年間の準備期間を経て、行政、指定管理者、NPO、ボランティア団体、企業、大学等の多様な主体で構成される公園管理運営組織「愛・地球博記念公園 公園マネジメント会議」が平成21年3月に発足した。本組織は、本公園内の「運営面」の活動を主な役割範囲とし、様々な立場の会員の方々と試行錯誤しながら取り組みを進めている。県民協働による本組織の活動を活性化させるため、議論の場の活性化や外部への情報発信に取り組んでいる。また、組織の発展のためには、園内情報の把握と発信や、公園が目指すべき姿の明確化、組織の位置づけの明確化などが必要である。このような「新しい公共」としての取り組みは、建設コンサルタントが活躍できる新たなフィールドとなるであろう。

○技術ポイント

- ① 公園運営管理を県民協働で進めていくための工夫の実施
- ② 「新しい公共」のモデルとなる活動の実行
- ③ 「新しい公共」を育むための課題の解決
- ④ 公園の性格に適したパークマネジメント組織のための柔軟な関わり方

○図・表・写真等



公園マネジメント会議の役割範囲

今年度で3年目を迎える公園マネジメント会議は、愛・地球博記念公園内の「運営」にかかわることを主な役割範囲として活動



公園マネジメント会議の体制図

年に1度全会員が出席する「総会」、2ヶ月に1度の協議・承認の場となる「コア会議」、公園内での活動を実行する「分科会」、1年間の活動内容を評価する「評価委員会」で構成



ワールドカフェ方式による総会運営

一方的に報告を聞くだけでなく、必ず全員が発言し、会員同士が意見交換や提案をしあい、結果を形に残せるよう、KJ法のワークショップ方式やワールドカフェ方式などの会議手法を導入



メンバーによるアートプログラム

愛知県と協力し、公園内のコア施設である「地球市民交流センター」の開館を盛り上げるため、オープニングセレモニー、記念講演会、アートプログラムなどを企画・実施